

福島第一原子力発電所の状況

平成 24 年 12 月 14 日
東京電力株式会社

< 1. 原子炉および原子炉格納容器の状況 > (12/14 11:00 時点)

号機	注水状況		原子炉压力容器 下部温度	原子炉格納容器 圧力*1	原子炉格納容器 水素濃度
1号機	淡水 注入中	炉心スプレイ系:約2.5 m ³ /h	23.7	108.4 kPa abs	A系: 0.18 vol%
		給水系:約2.5 m ³ /h			B系: 0.14 vol%
2号機	淡水 注入中	炉心スプレイ系:約3.9 m ³ /h	35.2	5.21 kPa g	A系: 0.10 vol%
		給水系:約2.0 m ³ /h			B系: 0.11 vol%
3号機	淡水 注入中	炉心スプレイ系:約4.1 m ³ /h	36.6	0.26 kPa g	A系: 0.21 vol%
		給水系:約2.0 m ³ /h			B系: 0.20 vol%

*1 絶対圧(kPa abs) = ゲージ圧(kPa g) + 大気圧(標準大気圧 101.3 kPa)

< 2. 使用済燃料プールの状況 > (12/14 11:00 時点)

号機	冷却方法	冷却状況	使用済燃料プール水温度
1号機	循環冷却システム	運転中	13.0
2号機	循環冷却システム	運転中	12.3
3号機	循環冷却システム	停止中	11.0
4号機	循環冷却システム	運転中	22

*各号機使用済燃料プールおよび原子炉ウェルヘッドにヒドラジンの注入を適宜実施。

※3号機使用済燃料プール代替冷却システム停止中のため、至近のデータ(12/12 11:00時点の値)を記載。

【3号機】

- ・12/12 14:02 使用済燃料プール代替冷却系において、弁追設および逆止弁点検を行うため、使用済燃料プールの冷却を停止。なお、12/18 まで冷却停止予定。冷却停止時のプール水温度は約 11.0℃で、停止中のプール水温度上昇率については約 0.16℃/h と評価しており、停止中のプール水温上昇は約 24℃であることから、運転上の制限値 65℃に対して十分余裕があり、プール水温度管理上問題ない。

< 3. タービン建屋地下等のたまり水の移送状況 >

号機	排出元 →	移送先	移送状況
2号機	2号機タービン建屋	→ 3号機タービン建屋	12/11 19:42 ~ 移送実施中
3号機	3号機タービン建屋	→ 集中廃棄物処理施設 [雑固体廃棄物減容処理建屋 (高温焼却炉建屋)]	12/7 17:00 ~ 移送実施中
6号機	6号機タービン建屋	→ 仮設タンク	12/14 10:00 ~ 15:00 移送実施

・港湾内の物揚場に係留しているメガフロートについて、今後、港湾内での工事や資機材搬入のために輸送船等を着岸させる必要があることから、港湾内北側に移設する予定。移設にあたり、メガフロートには、5・6号機タービン建屋の溜まり水を貯留しており、低濃度の放射性物質が含まれていることから、海への放射性物質漏えいリスク低減のため 11/22 10:10より11:59まで、メガフロートから5・6号機周辺仮設タンク等への溜まり水の移送を実施。なお、移送については、概ね1ヶ月程度を予定。

<4. 水処理設備および貯蔵設備の状況> (12/14 7:00 時点)

設備	セシウム 吸着装置	第二セシウム 吸着装置 (サリー)	除染装置	淡水化装置 (逆浸透膜)	淡水化装置 (蒸発濃縮)
運転状況	停止中	運転中*	停止中	水バランスをみて 断続運転	水バランスをみて 断続運転

*フィルタの洗浄を適宜実施。

・H23/6/8～ 汚染水・処理水を貯蔵・保管するための大型タンクを順次輸送、据付。

<5. その他>

- ・H23/10/7～ 伐採木の自然発火防止や粉塵飛散防止のため、5, 6号機滞留水の浄化水を利用し、散水を適宜実施中。
- ・H24/2/23～ 6号機サブドレン水について、一時保管タンクを経由した、仮設タンクへの汲み上げ試験を実施中。
- ・H24/3/6 ～ 5号機サブドレン水について、一時保管タンクを経由した、仮設タンクへの汲み上げ試験を実施中。
- ・H24/4/25～ 地下水による海洋汚染拡大防止を目的として、遮水壁の本格施工に着手。

・H24/12/13 16:30 頃 4号機廃棄物処理建屋1階通路上部の空調ダクトより1秒間に2滴程度水が滴下していることを、当社社員が発見。滴下水は4号機廃棄物処理建屋1階床面に、約2m×約2m×深さ 約1mm の範囲に広がっており、床面に溜まっている水は約2リットルと推定。滴下水は、4号機廃棄物処理建屋から付近の床ファンネル(建屋地下へ繋がる配管)に流入しており、また、1階床面は堰の構造となっているため、建屋外への流出はない。滴下水を分析した結果は以下の通りであり、タービン建屋地下滞留水の放射能濃度($10^3 \sim 10^4 \text{Bq/cm}^3$)より低いことを確認。

セシウム 134:約 $4.2 \times 10^1 \text{Bq/cm}^3$

セシウム 137:約 $7.2 \times 10^1 \text{Bq/cm}^3$

また、滴下水よりコバルト 60 およびヒドラジンが検出されなかったことから、4号機使用済燃料プール水(*)とは組成が異なっていることを確認。

(*)4号機使用済燃料プール水の組成(平成 24 年 12 月 3 日採取)

コバルト 60 :約 $2.5 \times 10^1 \text{Bq/cm}^3$

ヒドラジン :約3ppm

その後、12/14、滴下の状況および当該ダクトについて調査した結果、滴下水はダクト継ぎ目部から発生していたこと、また、建屋上部の屋外空調ダクトに損傷箇所(穴が開いている)があること、当該損傷部がある空調ダクトと滴下箇所である廃棄物処理建屋1階通路上部の空調ダクトはつながっていることを確認。

以上の調査結果および水の分析結果から、水の滴下は屋外ダクト部の損傷箇所より雨水が流入しダクトを伝わり継ぎ手部から滴下したものと判断。

12/14 15 時 30 分現在のダクトからの滴下量が、3秒1滴に減少。

なお、現在当該ダクトは使用していないことから、雨水が流入しないよう処置を検討中。

以上